自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400407		
法人名	特定医療法人 富田病院		
事業所名	高齢者 グループホーム あねもね 戸倉ヶ丘 1階ユニット		
所在地	北海道 函館市 戸倉町15番10号		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人様がこれまでの暮らしで行ってきた食事の支度など生活上の役割や園芸等の家庭での番を無理のない程度に続けて頂けるよう家庭での茶の間の雰囲気、ゆったりとした暖かい生活をして頂けますよう職員一同心がけ「笑顔あふれる皆の家」を目指しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2016.022_kani=true&JigyosyoCd=0191400407-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成25年に開設した「高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘」の運営母体は医療法人で、函館市に於いて医療と介護保険関連事業を幅広く展開している。函館市東部の湯の川地区の高台に位置し、近くには大学や高等専門学校、小中学校や幼稚園などもあり住宅も多い地域に立地している。法人の理念・グループホームの理念の他にユニットとしての目標を職員全員で話し合い作り上げている。開設して4年目の当事業所は、町内会、中学校や幼稚園児などとの交流も盛んに行われており、七夕祭りには近隣の沢山の子供たちの来訪もあり、利用者はお菓子などを手渡して楽しい時間を過ごしている。又、踊りや手品のボランティアも定期的に訪れており地域密着型として機能している。管理者と職員は気候の良い時期には出来るだけ外出の機会をつくり外食やドライブなどを企画し、利用者は外気に触れながら食事やおやつを楽しみ、今までと同じ生活の継続と地域との交流を深める支援をしている。家族の面会も多く利用者との馴染みの関係もできており、管理者と職員は常に利用者に寄り添いながら「笑顔あふれる みんなの家」の理念に基づき日々のケアを実践している。利用者は尊厳のあるそして笑顔のある穏やかな生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示にて共有し実践している。また、理念についての勉強会などで再確認をしている。	法人の理念の他にグループホーム独自の理念とユニット毎の目標を事業所内に掲示している。利用者が地域の中で「笑顔あふれる、皆の家」という理念を基に日々の生活が送れるよう管理者と職員は常に共有し確認して実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事などで近隣のお店からケーキ等の購入や夏には向かいのお店へアイスクリームを食べに行ったり、町内を散歩しながら地域の方との交流を図っている。	夏祭りや敬老会には町内会長と近隣のお店の方の参加がある。近くの中学校から吹奏楽の演奏や七夕祭りには町内の子供たちの来訪もある。踊りや手品のボランティアを受け入れており利用者との交流は盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前迷子の高齢者を保護し警察官に引き継いだ。(後日、町内ではないが近隣の方であったと警察より連絡あり。)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の生活の様子を報告し行政機関や家族との情報交換を行っている。	定期的に開催している。家族・町内会長・地域包括支援センターからの参加があり、家族や町内会長からの活発な意見もありサービスの向上に活かしている。参加出来なかった家族には毎回議事録を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や業務に関する相談を通じて協力している。	行政の担当者とは施設長が常に密に連絡・相談をし、協働関係を築いている。地域包括支援センターとも連携を図り入居状況の報告・相談を行い、研修会などにも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者本位のケアを実践している。	入居時に家族には身体拘束禁止に伴う事業所の方針を説明し、同意を得ている。身体拘束委員会があり、委員会で作成した「介護は愛」と壁に掲示しており、常に職員は互いに注意しあい日々のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご家族様及び職員間で情報交換を行う事で虐待及び虐待と思われる介護をしない事を心がけている。また、教育委員会で勉強会を開いたり、研修への参加。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談業務を担う職員を窓口とし相談があった場合は支援している。また、研修への参加。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を利用している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の中で困っている事がないか、ご家族様の面会時にご要望をお聞きしたり、運営推進会議を利用している。行事や外食などへの散家事にはご意見や感想をお聞きす、次の催しの企画時に取り入れるようにしている。	家族の来所時には管理者と職員は何でも話せるような雰囲気づくりに留意している。何気ない言葉や表情から些細な事でも拾い上げた意見は職員で共有して取り組み、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングや合同ミーティングを利用している。また、アンケートや個人面談等も行うようにしている。普段の業務の中でも情報交換をしている。	個人面談は特に定めていないが、常日頃から管理者は職員とコミュニケーションを図り、職員の様子を見ながら意見等を聞く機会を作り、気付きやアイデアを職員会議で検討し柔軟な対応をして運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションを取り、個々の能力を見極めアドバイスし、職員環境についても改善できるものはしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加、委員会活動等を通し知識を共有し深めるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと勉強会を行っている。 (道南グループホーム協会Bブロック会議)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中で困っている事がないか聞いている。手を握る等でコミュニケーションをとっている。顔を合わせるときには挨拶を忘れないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は事前面談を行い、ご家族様並びに利用者様の生活状況を聴きどのような介護を望んでいるのかをケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は事前面談を行い、ご家族様並びに利用者様の生活状況を聴き待機期間がある場合は他のサービス情報を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や食事作りなど在宅に居る時と同じように生活できる場面を作り同居者のような関係でいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会回数を増やし、本人と家族、職員と一緒に会話できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	連絡を密にとり外泊や外出し馴染みのある場所や方との交流などを行っている。	家族の協力により以前からの理容院へ行き続けている利用者や年末年始に自宅に外泊する利用者もいる。普通のレストランに行きたい利用者は職員対応で出かけている。年賀状やクリスマスカードの作製も職員と一緒にいき支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでテレビ鑑賞やレクリエーション、調理等を行い、利用者同士が顔見知りの関係をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況を電話連絡などを通じ行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族様からの聴取や、生活歴から反映できるようにしている。	職員は日々のケアの中で常に一人ひとりに関心を持ち、言葉をかけ表情・目の動き・仕草などから把握してケアに活かしている。意思疎通が困難な場合は家族から情報を得て職員全員が共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様からの聴取や、生活歴から反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のサービス提供からの中から把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜ケアカンファレンスを行い、モニタリングし、本人に合ったニーズ目標に向かうようにケア担当、計画作成担当者、介護支援専門員が現状に合った計画を作成するように努めている。	日々のケアの中での本人の状態と家族の意向、関係者などからの意見を基に介護計画を作成している。職員全員で意見交換をし、アセスメントとモニタリングを繰り返し行い必要に応じてプランの見直しを行い現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスシートを使用し介護計画の見直し、日々の申し送りや、ミーティング、各種委員会活動を通し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な社会資源を利用し、サービス提供は臨機応変に行うように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食事外食等を通し、社会性が衰えないようにしている。行事で近隣の方へチラシを配り施設に来て頂いたり、七夕には近所の子供さんが来て入居者様からお菓子を手渡しして頂いた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは定期的な往診、受診を通じ情報交換を行っている。	運営母体の医療法人から2週に1回の往診と看護師が週1回来ており、常に利用者の健康状態を把握している。家族対応で従来からの病院受診もある。職員が対応した場合にはその都度受診結果は家族に報告している。	

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を看護職員へ報告し、判断を仰ぎながら受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族との情報交換、病院からの病状の把握をしながら良好な関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じて、ご家族様と共有する際に施設として支援している。	入居時に家族には重度化に伴う指針を説明し同意を得ている。主治医の判断で医療行為が必要になった時には家族の意向を再確認し、納得した最期を迎えられるようチーム全体で支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通し行っている。また、地域の同じグループホームの中で、災害時の緊急連絡網を作り、連絡体制を築いている。(道南グループホーム協会Bブロック)	当事業所は耐震基準を満たしている建物である。日中と夜間を想定し町内会や家族の参加のもとで訓練を行っている。又、道南グループホーム協会Bブロックとの連携も出来ている。災害に備えての備蓄や停電時の発電機も備えてある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱くことを基本としている。	苦情・接遇委員会があり、勉強会を開催し職員は常に利用者の尊厳を大切に考え個性や守秘義務を守り、一人ひとりのケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱くことを基本としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱くことを基本としている。今、何を望んでいるのか利用者様の思いに沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、入浴を通し衛生的な身だしなみに努めている。また、日々の生活の中で行事や外食など希望時には、お化粧品や着ていく服を選んだりその手伝いをさせて頂いている。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々食べたい物の要望等を聞いたり、調理や食事、片付けを一緒に行っている。	利用者の好みに合わせて献立を決めている。季節に合わせて出前を注文したり外食の機会も多い。希望者にはノンアルコールの飲み物の提供もあり食事を楽しんでいる。後片付けも職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量などを記録し、努めている、利用者様の嚥下状態に合わせ、食事形態の工夫をしたり、食べやすい物へ変えたりし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また、夜間の義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を定期的に促し努めている、また、排泄チェック表を利用し、排泄パターンの把握や、声のかけ方のタイミングの工夫をしている。	職員は利用者の排泄パターンを把握しており表情・目の動き・仕草などからさりげなくトイレ誘導している。家族の意向により夜間のみオムツ使用もあり利用者一人ひとりに合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し排泄パターンの把握に努め、食事や乳製品の飲み物の提供や体操などを行って頂きながら、予防に努めている。また、温罨法やマッサージ等も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の意向に即した入浴を心がけている。	週2回の入浴を目安にしている。湯船に入るのが怖いという利用者にはシャワー浴をし、一人で入りたい利用者には「背中流すね」等と声かけて気持ちよく安全に入浴が出来る様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれずに、休めるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師に指示及び、看護職員の指導等で服薬についての知識を深め、情報交換を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様ご家族様からの情報をもとに努めている。普段より、昔楽しかった出来事や催し物の内容をお聞きしたりし、会話の中からお好みの物事等の情報収集している。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛ける事や、外食の機会を作る事で、外出支援を行っている。	季節に合わせて外出し春は近くの高等専門学校の桜を見に行き、秋には紅葉ドライブなども行っている。玄関前にプランターを置き花や野菜の水やりや収穫も楽しんでいる。近くのケーキ屋に買い物に行ったり玄関前のベンチに腰かけてアイスを食べるなど出来るだけ外気に触れるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の状態により行っている。床屋の支払いなど。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会、電話、手紙(はがき)、広報誌等で近況を報告し出来る様に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、整理整頓、により衛生的な環境づくりに努めている。また季節ごとに飾りつけを行い、季節感を実感できるように努めている。	事業所内はバリアフリーが完備されており明るく清潔感がある。共有空間のソファの配置も落ち着いた感じに置かれており、キッチン是对面方式で常に利用者と職員と一緒に過ごしている居心地のよさが見られた。壁には季節感のある飾り付けや職員手作りの「干支」のイラスト等もあり温かで穏やかな空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様がリラックスできる場所を確保出来るように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の愛着しているものを持ち込んでもらうようにしている。	居室にはクローゼットが備え付けてあり、明るくゆったりとしている。利用者一人ひとりの在宅当時の家具や思い出の品や家族の写真などがあり、その人らしく居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理、清掃、洗濯などご本人様が行える事は安全面を考慮しながら一緒に行えるように努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400407		
法人名	特定医療法人 富田病院		
事業所名	高齢者 グループホーム あねもね 戸倉ヶ丘 2階ユニット		
所在地	北海道 函館市 戸倉町15番10号		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人様がこれまでの暮らしで行ってきた食事の支度など生活上の役割や園芸等の家庭での出番を無理のない程度に続けて頂けるよう家庭での茶の間の雰囲気、ゆったりとした暖かい生活をして頂けますよう職員一同心がけ「笑顔あふれる皆の家」を目指しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2016.022_kani=true&JigyosyoCd=0191400407-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示にて共有し実践している。また、理念についての勉強会などで再確認をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事などで近隣のお店からケーキ等の購入や夏には向かいのお店へアイスクリームを食べに行ったり、町内を散歩しながら地域の方との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前迷子の高齢者を保護し警察官に引き継いだ。(後日、町内ではないが近隣の方であったと警察より連絡あり。)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の生活の様子を報告し行政機関や家族との情報交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や業務に関する相談を通じて協力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者本位のケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご家族様及び職員間で情報交換を行う事で虐待及び虐待と思われる介護をしない事を心がけている。また、教育委員会で勉強会を開いたり、研修への参加。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談業務を担う職員を窓口とし相談があった場合は支援している。また、研修への参加。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を利用している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の中で困っている事がないか、ご家族様の面会時にご要望をお聞きしたり、運営推進会議を利用している。行事や外食などへの散家事にはご意見やご感想をお聞きす、次の催しの企画時に取り入れるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングや合同ミーティングを利用している。また、アンケートや個人面談等も行うようにしている。普段の業務の中でも情報交換をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションを取り、個々の能力を見極めアドバイスし、職員環境についても改善できるものはしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加、委員会活動等を通し知識を共有し深めるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと勉強会を行っている。 (道南グループホーム協会Bブロック会議)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中で困っている事がないか聞いている。手を握る等でコミュニケーションをとっている。顔を合わせるときには挨拶を忘れないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は事前面談を行い、ご家族様並びに利用者様の生活状況を聴きどのような介護を望んでいるのかをケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は事前面談を行い、ご家族様並びに利用者様の生活状況を聴き待機期間がある場合は他のサービス情報を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や食事作りなど在宅に居る時と同じように生活できる場面を作り同居者のような関係でいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会回数を増やし、本人と家族、職員と一緒に会話できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	連絡を密にとり外泊や外出し馴染みのある場所や方との交流などを行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでテレビ鑑賞やレクリエーション、調理等を行い、利用者同士が顔見知りの関係をつくっている。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況を電話連絡などを通じ行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族様からの聴取や、生活歴から反映できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様からの聴取や、生活歴から反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のサービス提供からの中から把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜ケアカンファレンスを行い、モニタリングし、本人に合ったニーズ目標に向かうようにケア担当、計画作成担当者、介護支援専門員が現状に合った計画を作成するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスシートを使用し介護計画の見直し、日々の申し送りや、ミーティング、各種委員会活動を通し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な社会資源を利用し、サービス提供は臨機応変に行うように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食事外食等を通し、社会性が衰えないようにしている。行事で近隣の方へチラシを配り施設に来て頂いたり、七夕には近所の子供さんが来て入居者様からお菓子を手渡しして頂いた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは定期的な往診、受診を通じ情報交換を行っている。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を看護職員へ報告し、判断を仰ぎながら受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族との情報交換、病院からの病状の把握をしながら良好な関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じて、ご家族様と共有する際に施設として支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通し行っている。また、地域の同じグループホームの中で、災害時の緊急連絡網を作り、連絡体制を築いている。(道南グループホーム協会Bブロック)		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱くことを基本としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱くことを基本としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱くことを基本としている。今、何を望んでいるのか利用者様の思いに沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、入浴を通し衛生的な身だしなみに努めている。また、日々の生活の中で行事や外食など希望時には、お化粧品や着ていく服を選んだりその手伝いをさせて頂いている。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々食べたい物の要望等を聞いたり、調理や食事、方付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量などを記録し、努めている、利用者様の嚥下状態に合わせ、食事形態の工夫をしたり、食べやすい物へ変えたりし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また、夜間の義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を定期的に促し努めている、また、排泄チェック表を利用し、排泄パターンの把握や、声のかけ方のタイミングの工夫をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し排泄パターンの把握に努め、食事や乳製品の飲み物の提供や体操などを行って頂きながら、予防に努めている。また、温罨法やマッサージ等も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の意向に即した入浴を心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれずに、休めるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師に指示及び、看護職員の指導等で服薬についての知識を深め、情報交換を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様ご家族様からの情報をもとに努めている。普段より、昔楽しかった出来事や催し物の内容をお聞きしたりし、会話の中からお好みの物事等の情報収集している。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛ける事や、外食の機会を作る事で、外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の状態により行っている。床屋の支払いなど。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会、電話、手紙(はがき)、広報誌等で近況を報告し出来る様に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、整理整頓、により衛生的な環境づくりに努めている。また季節ごとに飾りつけを行い、季節感を実感できるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様がリラックスできる場所を確保出来るように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の愛着しているものを持ち込んでもらうようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理、清掃、洗濯などご本人様が行える事は安全面を考慮しながら一緒に行えるように努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あねもね戸倉ヶ丘

作成日：平成 29年 3月 17日

市町村受理日：平成 29年 3月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう事業所自体が地域の一員として日常的な交流が不十分であった。	入居者様やご家族様、働いている職員が安全でより笑顔で楽しい時間を一緒に過ごせるような環境を提供し続けるために地域住民の方をお招きし、情報を広く発信し運営に関するご意見などを頂き、より良い地域との協働を図りたい。	町内会長を通して地域の方へ協力と理解を頂けるようお願いしながら、運営推進会議や行事の案内を働きかけていく。町内会へ当事業所でお手伝い出来る事はないか声掛けし協力体制と馴染みの関係性の構築を図る。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。